

石川県立美術館

石川県立美術館は、石川県の美術工芸の精巧さと多様性を示し、日本の文化や歴史において重要な役割を果たす 4,000 点を超える作品を所蔵している。1 点の国宝の常設展示、6 点の重要文化財、県内の重要無形文化財保持者の作品を多数収蔵している。

当館は、全国でも最も古い地方美術館の一つである。1959 年に兼六園の端にある小さな施設に設立された。1970 年代後半、県はより大規模な展示が可能で、歴史的なコレクションを維持できる新美術館の計画を開始した。1983 年、現在の建物は、緑豊かな金沢の文化街の中心に開館した。

当館のコレクションは比較的規模が大きく、伝統工芸の中心地として長い歴史を持つ石川県の重要な作品を多数所蔵している。江戸時代（1603-1867）には、前田家が名工を招き入れ、最先端の工房を育成した。作品は全国各地に流出することもあったが、多くは地元に残り受け継がれてきた。第二次世界大戦中、金沢は他の大都市のような大規模な破壊を免れたので、多くの個人コレクションが戦災を掻い潜り、後に当館に寄贈された。

常設展と企画展を合わせると、常時約 250 点が展示されている。九谷焼、加賀友禅、加賀時絵漆器など石川県を代表する工芸技術や様式を紹介するものから、装飾刀や馬具、輿、経典など石川県の歴史を物語る精巧な工芸品も含まれている。また、茶道具、能面・能装束、書道具など、日本の広範な芸術領域に地域が参加したことを示す作品も含まれている。石川県の現代作家による油彩画や写真などのモダンな作品からは、技術や美意識が進化し続けていることがわかる。

当館は、石川県の伝統的な美術工芸品の保存の中核を担うべく、歴史的な作品から最新の作品まで、幅広く収集し続けている。また、石川県の文化遺産を地域の皆さんや観光客に紹介する場としても利用されている。